



伊万里信用金庫行動綱領

伊万里信用金庫は、高い公共性を有し、地域の中小企業と地域住民のための協同組織の金融機関として、①中小企業の健全な発展、②豊かな国民生活の実現、③地域社会繁栄への奉仕の三つのビジョンのもと、その社会的使命を自覚し地域の発展のために尽力してきた。

これからもこうした社会的使命と責任を全うする金融機関として、地域社会の負託に応え、これまで以上の揺るぎない信頼を確立するために、本行動綱領を定めるものである。

(信用金庫の社会的使命と公共性の自覚と責任)

1. 信用金庫のもつ社会的責任と公共的使命を常に自覚し、責任ある健全な業務運営の遂行に努める。

(質の高い金融等サービスの提供と地域社会発展への貢献)

2. 経済活動を支えるインフラとしての機能はもとより、創意と工夫を活かし、お客さまのニーズに応えるとともに、セキュリティ・レベルにも十分配慮した質の高い金融および非金融サービスの提供等を通じて、地域経済・地域社会の発展に貢献する。

(法令やルールの厳格な遵守)

3. あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範に決してもとることのない、誠実かつ公正な業務運営を遂行する。

(地域社会とのコミュニケーション)

4. 経営等の情報の積極的かつ公正な開示をはじめとして、広く地域社会とのコミュニケーションの充実を図る。

(従業員の人権の尊重等)

5. 従業員の人権、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保する。

(環境問題への取り組み)

6. 資源の効率的な利用や廃棄物の削減を実践するとともに、環境保全に寄与する金融サービスを提供するなど、環境問題に積極的に取り組む。

(社会貢献活動への取り組み)

7. 信用金庫が社会の中においてこそ存続・発展し得る存在であることを自覚し、社会と共に歩む「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動に取り組む。

(反社会的勢力の排除)

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力は、これを断固として排除する。

以上



ごあいさつ

皆さまには、平素より伊万里信用金庫をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の国内経済を概観しますと、前半においては好調な輸出や大企業を中心とした企業収益の改善を背景とした設備投資の増加などから、景気は緩やかな拡大を続けました。しかし、年度後半に至っては米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や原油をはじめとする資源や穀物価格が高騰し、次第に先行き不透明感を強めて、国内経済への影響が懸念されております。

金融業界におきましては、昨年9月に金融商品取引法の施行などにより、利用者保護、利用者重視の政策が進められ、一層の法令遵守態勢の強化による適切な業務運営が求められております。また昨年10月にはゆうちょ銀行の発足、異業種からの金融業への参入など、メガバンク、地方銀行等との競争も一段と厳しさを増し、昨年12月末には保険窓販の全面解禁が実施され、金融機関の窓口での“ワンストップショッピング”化がさらに進展しました。

こうした中で、当金庫は、顧客満足度の向上と持続的発展が可能な「地域社会づくり」を目指し「地域活性化しんきん運動」を掲げ、諸施策を強力に実行・展開していく所存であります。これにより、地域の皆様のニーズに対し、一層のきめ細かなサービスを提供し、地域になくてはならない金融機関として役職員一丸となって取り組み、会員並びにお客様の一層の信頼を得るべく努力して参る所存でございます。

当地域においては、まだまだ厳しい経済環境でございますが、地域経済の発展のため専心努力いたし、皆さまのご期待にお応えする所存でございますので、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、平成19年度の業務内容についてのディスクロージャー誌を発行いたしましたので、ご供覧いただければ幸甚に存じます。

平成20年7月

理事長 中山 武重